

とになつたのである

第四項 協調會と學園との關係

協調會は、コーエン氏の懇談によつて、資産とともに職員、事業の新團體に継承するとのと解して善後處置を進めた。しかしその後の事態の發展は、幾多の曲折を重ねた。

先づ六月十五日に開いた設立準備委員會で、鮎澤氏は「コーエン氏に會つたか、協調會のオリジンは貴族や財閥か労働者」を抑制するたがひの戰爭に協力したと思ふ、に産報は全くナチ的の北のでこれか戰爭に協力することになつたのはこのポルーフで、また安川松岡氏などを役員に新任し

たのはその性格をカムフラージュするためだと思ふ、總司令部として、かような性格のものは一掃しなければならぬと言つていたので、協調會の社會政策的施策殊に社會政策學院の事績を力説しておいた。また「もし協調會が解散しないならダイレクターを出さよりほかなく、協調會の資産は、共產黨であろうと市民衆のためにこれを求めざるものに與えるほかないことにならう」と語つておつた。と語つた。また桂氏は「コーエン氏の眞意は、建物圖書館などの資産を新しく出發するべしといふにあると思われし」と語つた。これらは今までの話とは大違つていたが、これさうだとして、これは協調會の趣旨、目的または性格の継承について言つていたのみであつ